

平成21年 4月17日現在

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2006 ～ 2009

課題番号：18300279

研究課題名 (和文) 国際協力の質保証に貢献する教育工学的研究

研究課題名 (英文) Research on International Cooperation Practices from a View Point of Educational Technology to Contribute to Quality Assurance

研究代表者

牟田 博光 (MUTA HIROMITSU)

東京工業大学・大学院社会理工学研究科・教授

研究者番号 70090925

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学、教育工学

キーワード：国際協力、評価手法、質保証、開発援助、ロジックモデル、インパクト、アウトカム、中間指標

1. 研究計画の概要

本研究は、国際協力活動の質を担保するための評価手法、仕組みに関する教育工学的な総合的研究を行い、評価を客観化、透明化する観点から、具体的な手法、仕組みを提案し、その成果をプロジェクト・デザインの改善を通じて実際の協力活動に応用させることにより、国際協力の質を担保、向上させることを目的とするものである。

2. 研究の進捗状況

評価の質を高め、その結果をフィードバックし、それによってプロジェクト・デザインを改善してより良いプロジェクトを実施するために、以下のようなサブ研究を行った。

(1) 評価報告書の内容分析に関する研究

① 二次評価手法についてはこれまで OECD-DAC の評価5項目に沿って、独自に評価の視点を開発してきたが、それを実際の二次評価に用いた結果に基づきさらに改良した。

② 一次評価の事例を新しく収集し、改訂した評価視点に基づいて二次評価を行うことによって、データの蓄積を行った。

③ これまで累積してきた二次評価結果のデータを詳細に分析することにより、どのような要因がプロジェクトの成果を説明するかについて、分析を行う事により、二次評価結果の活用を図った。

(2) 研修の評価に関する研究

① 評価の困難な分野に短期研修の評価がある。実施期間関が短いこと、費用が相対的に小さいこと、計量的な評価が困難なことなど

からこれまでほとんど評価されてこなかった。しかし、二次評価手法の援用により、具体的な事例に沿って、評価手法を開発した。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

(理由)

データの入手も順調であり、研究の進捗も問題がなかった。

4. 今後の研究の推進方策

特段の計画変更の必要はなく、最終年度に向けて、これまでのとりまとめを行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

① 戸井敦子、牟田博光、途上国における学校建築と設備整備による教育的インパクト：インドネシアの事例に見る成果と課題、「日本教育工学会論文誌」、32(1)、23-32、2008、査読有

② 富田真紀、牟田博光、教員研修が生徒の学力向上にもたらす効果に関する研究、「国際開発研究」、16(1)、21-35、2007、査読有

③ 日野哲也、牟田博光、参照点の変化を考慮した評価測定の研究、「日本評価研究」、7(2)、17-25、2007、査読有

④牟田博光、国際協力事業の評価、「国際開発研究」、16(2)、77-89、2007、査読有

〔学会発表〕(計 2 件)

①Muta, Hiromitsu, The Effective Cooperation with Developing Countries and the Role of Evaluation, -Needs and Challenge of Joint Monitoring and Evaluation, FASID/MOFA International Symposium, The Role of Evaluation in Enhancing Development Effectiveness, 7/10/2007, Tokyo

②Muta, Hiromitsu, A measurement of Social Effects on Short-term Education and Training Programs, WCCES XIII World Congress, 9/3-7/2007, Sarajevo

〔図書〕(計 2 件)

①牟田博光、国際教育協力事業の評価－課題と展望－、澤村信英編著「教育開発国際協力研究の展開－EFA(万人のための教育)達成に向けて実践と課題」、明石書店、2008、295-317

②牟田博光、量的評価、三好皓一編「評価論を学ぶ人のために」、世界思想社、2007、23-36